

## 16 短縮応答と文応答

### ●短縮応答と文応答

疑問文に対しては、(1B)のように文単位で答える**文応答 (sentential answers)**に加え、(2B)のようにwh要素(what)の答えに当たるもの(an apple)のみを答える**短縮応答 (fragment answers)**が可能である。

(1) A: What is John eating? B: He is eating an apple. (文応答)

(2) A: What is John eating? B: An apple. (短縮応答)

短縮応答と文応答の関係性について、両者は別物で、短縮応答は文(節)構造を持たないとする立場(Progovac 2006, 2013 参照)と、短縮応答は文応答と同じ文(節)構造を持つとする立場(Merchant 2004 参照)がある。本稿では、それぞれの立場を支持する証拠をみていく。

### ●短縮応答が文応答とは異なる構造を持つことを示す証拠

文応答と短縮応答はいくつかの異なる特性を示す。例えば、主語を問う疑問文に対して、(3B)に示すように、文応答は主格(I)を用いるが、(3B')に示すように、短縮応答は対格(me)を用いる(Progovac 2013, Hall 2019 参照)。

(3) A: Who wants candy?

B: I/\*Me want candy.

B': \*I/Me.

(Hall 2019: 607)

また、文応答と異なり、短縮応答は疑問文の**前提内容の継承 (presupposition inheritance)**という特性を示す(Jacobson 2016 参照)。例えば、(4A)の疑問文は「真夜中にパーティー会場を出た数学の先生が一人いる」という前提を持つ。この前提を、(4B)の文応答は継承せず、「Jillは数学の先生ではない」という内容が続けることが可能である。一方で、(4B')の短縮応答は、(4A)の疑問文の前提を継承した結果、Jillが数学の先生でなければならず、「Jillは数学の先生ではない」という内容が続くことで容認度が落ちる(Jacobson 2016 参照)。

(4) A: Which mathematics professor left the party at midnight?

B: Jill left the party at midnight, but she's not a mathematics professor.

B': ?Jill, but she's not a mathematics professor.

これらの特性の違いは、短縮応答が、文応答とは別物で、文応答のような文(節)構造を持つものではないとする立場を支持する証拠となる。

### ●短縮応答が文（節）構造を持つことを示す証拠

次に、短縮応答が、文応答と同じ文（節）構造を持つとする立場を支持する証拠をみていく。この立場では、(2B)の短縮応答は(5)のように分析される。(1B)の文応答と同じ文（節）構造があり、wh要素の答えに相当するan appleを残し、復元可能な情報が音形削除（省略）される（Morgan 1973 参照）。

(5) [節 ~~he is eating~~ [名詞句 an apple]]

この立場は、短縮応答が文応答と同じ特性を示すことから支持される。例えば、(3)でみた主格の場合を除き、(6)に示すように、基本的には、短縮応答は文応答と同じ格を用いる。

(6) A: Whose car did you take?

B: I took John's car/\*I took John car.

B': John's/\*John.

(Merchant 2004: 678)

短縮応答が文応答からの省略により派生されるのであれば、(6B')の短縮応答 John の容認度の低下は、(6B)の元となる文応答 I took John car. が容認されないことに還元できる。

また、Merchant (2004) は、(7)のように、短縮応答が文応答から派生される際、省略前に短縮応答 an apple が節頭位置へ移動する分析を提案する。

(7) [[名詞句 an apple] ~~he is eating~~ t]

この移動分析は、短縮応答が文（節）構造を持つことを示す追加の証拠を提供する。例えば、応答部分に当たる節を文頭に移動した(8B)の文応答と(8B')の節の短縮応答では、いずれにおいても that を落とすことができない。

(8) A: What does no one believe?

B: \*(That) I'm taller than I really am, no one believe.

B': \*(That) I'm taller than I really am.

(ibid.: 690)

that の脱落の不可能性について、文応答と短縮応答が同じ振る舞いを示すということこの事実は、短縮応答が文応答と同じ文（節）構造を持つことを示す。

### ●まとめ

短縮応答が文応答と同じ文（節）構造を持つことを示す特性とその反対のことを示す特性が存在する。「短縮応答と文応答が同じ文（節）構造を持つのか否か」という問題はいまだ解決していない。

(木村 博子)